

## 式 辞

凍てつく冬の寒さも和らぎ、内浦湾を渡る微風に、新たな生命の芽生えと、希望に満ちた春の訪れを感じられるようになりました。

本日、ここに、PTA会長 赤塚顕爾様、並びに保護者の皆様のご臨席を賜り、北海道長万部高等学校 第七十四回卒業証書授与式を挙行できますこと、心より厚く御礼申し上げます。

保護者の皆様、本日はお子様のご卒業、誠におめでとうございませう。これまで、深い愛情とご支援により、卒業の日を迎えられましたこと、心よりお喜び申し上げます。

また、これまでの三年間、本校の教育方針並びに、教育活動にご理解とご協力をいただきましたことに、教職員一同を代表して、心より感謝申し上げます。

ただ今、卒業証書を授与されました十一名の卒業生の皆さん、改めて、卒業おめでとうございませう。

皆さんは「和而不同（和して同ぜず）」の校訓のもと、何事にも真摯に向かい、学習活動や学校行事、生徒会活動、部活動にと、それぞれの人生の歩みを重ねてきました。それは正に、掛け替えのない、貴重な時間であったに違ひありません。そして、本日、本校における全ての教育課程を修了し、卒業を迎えました。これまでの皆さんの努力に敬意を表するとともに、心からお祝い申し上げます。

伝統と歴史のある長万部高等学校で、三年間成長し続け、今、旅立ちの時を迎えた卒業生十一名をお祝いし、次の二つの言葉を贈ります。

一つ目は、「青春の夢に忠実であれ」という、ドイツの詩人シラーの言葉です。

彼は、劇作家や思想家でもあり、若き頃より、夢の実現に向け努力し、己の理想を掲げ、真の自由を追い求めた人物です。

人は大人になる過程において、様々な経験を重ね、多くの幸せや困難と出会います。時には、己の若さ故の未熟さを痛感したり、現実という「壁」に押しつぶされそうになることもあるでしょう。日常生活に追われ、少しずつ夢を忘れてしまったり、諦めてしまうこともあります。

しかし、若いということは、それだけで限りない可能性を秘めています。未来を創造するのは若者なのです。皆さんには、目の前の現実に負けることなく、大きな夢をもち続けて生きてほしいと願っています。明けない夜はありません。何かに追われるより、何かを追い求める人生を歩んでください。

二つ目は「置かれた場所で咲きなさい」という言葉です。

皆さんは、この言葉を覚えていますか。以前、集会において語りかけた一つです。そして、皆さんなりに、この言葉の意味を考えてみてほしいとお願ひした言葉です。

「置かれた場所」。それが、どのような境遇であっても、状況を嘆いたり、他者に責任を押しついたり、不平不満を言うだけではなく、自ら行動することの大切さやできることを精一杯、そして直向きに取り組むことの尊さを表した言葉です。決して、「仕方がないからその場所で我慢しなさい」という意味ではありません。「今いる場所で、自分自身が最善を尽くし、そして、幸せになりなさい。」という言葉です。

そこで咲かせた「幸せ」という「花」は、その人だけではなく、周りの人をも幸せにしてくれるはずでう。現実や他人は容易には変わりませんが、自分自身は変わることができます。

いつもと同じ風景に、同じ時間。いつもの仲間がいた教室から、思い描いていた未来は、それぞれの道へ繋がっていきます。そして、その道は、一人ひとり違います。皆さんが、どこで、どのような「花」を咲かせるのか、期待しています。

結びになりますが、本日の輝かしい門出に当たり、卒業生の皆さんが夢を叶え、生き生きと活躍されることを心より期待するとともに、ご参会の皆様方のご健勝を祈念申し上げまして、式辞といたします。

令和七年三月一日

北海道長万部高等学校長

土 屋 靖 雅